九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[009] 総合文化学論輯表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2552916

出版情報：総合文化学論輯. 9, 2018-11-01. 総合文化学研究所
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編集・運営メモ

1. 2014 年 4 月 1 日、総合文化学会とその運営組織としての総合文化学研究所が発足しました。　先立つ母体としての比較思想学会福岡支部が全国学会として独立してのことで、比較思想学会にはことのほかお世話になりました。今後とも親密な関係を保って運営していきたいと思います。また、地方支部ではできなかった、全国各地や海外の会員も参加して下さって、その領域も総合文化にふさわしく広範な領域にわたり、豊かな出発となりましたことを感謝申し上げます。
2. 2016 年 4 月 1 日を以て、地域健康文化学会・地域健康文化学研究所を吸収する形で統合しました。
3. 本誌は、国会図書館のご好意により ISSN を得ています。御礼申し上げるとともに、今後、不手際の無いように、発刊ごとに送付しなければなりません。
4. 本誌は、九州大学附属図書館学術情報リポジトリに全巻電子的に格納され、全世界からの閲覧が可能となります。
5. 本誌は、ＣＤロムというメディアで刊行します。
   今回は音声資料を格納しましたが、今後ともＣＤロムという性格を活用して、
   さまざまな試みを行っていきたいと思います。アイデアをお寄せいただければ幸いです。
6. 年度末、年度途中に関わらず、常勤・非常勤を通して会員の異動があります。現実を踏まえて勤務先や肩書きの表記は以下のように行います。
   口頭発表に関しては、発表時の立場を記します。
   掲載論文については、異動前の立場を記すとともに、編集時に確定しているものは異動後の立場を注記します。
7. 本誌原稿には、専攻、授業科目などなるべく詳しく記します。特に、学生や専任の教職以外の方は自己紹介の意味を含めて詳細にご協力をお願いしました。感謝申し上げます。
8. 講演の場合には、内容の書式と資料を整え論文にふさわしい形にするなどし、また、書評、調査資料、文献資料、企画資料など、資料として保存しておきたいものや、絵画、写真、音声、文芸作品などの掲載をも行います。

特に、昨近、タブレット端末を利用し電子書籍を教科書に用いる授業も現れてきました。講師が作成する資料は当面は当該大学、学校の内部システムに登録することになりますが、その場合は、卒業以降に遡って呼び出すことは出来ません。そのような意味においてあえて一般的に閲覧可能なシステムに登録する方式が便利な場合もあります。一例ですが、例えばその方が便利だというような資料を、本誌資料コーナーに掲載しておくことも可能です。

9. 掲載論文については今号も事務局の責任で複数の査読を実行いたしました。論旨を確認しつつ何度も読み、それに基づいて手を入れていただきました。関係各位に感謝いたします。なお、信頼できる学会、研究会で議論された事実も、査読の一部に加えます。真摯な議論を期待いたしますとともに、各学会、研究会に積極的にご発表願います。

10. 各学会で査読の際に問題になることで、論文の学術的質の問題があります。一般的には、先行研究を意識し、論理と論拠の充実度を以て質を評価しますが、他方、著者なりのオリジナリティにおいては必ずしもその基準にそぐわないものもあります。また、査読者のバイアスにおいて、量的研究は認めるが、質的研究は認めないなどの問題が起こることもあります。研究とは本来自由であるべきではありますし、当学会の目的の一端には学問の底上げもありますので、教条的にならずになるべく多様な論文を認め掲載していきたいという方向性です。やはり、論文である以上、査読者のバイアスは無くし、読者に理解できるだけの論拠と論理を軸にして頂くよう、査読者には依頼しております。また、症例報告のような場合にはプライバシー保持の義務を厳格に遵守して頂くようにお願いします。

11. 「総合文化学会論輯」(CD ロム)は、総合文化学会の運営システムとしての総合文化学研究所の機関誌をも兼ねておりますが、これまでその方面の機能をあまり発揮してこなかったように思われます。そこで、皆様にご確認、お願い申し上げますが、本誌はクラウド化する役割をも担っており、アーカイブ機能を持つのにふさわしいので、残しておきたい記録写真（昭和の何気ない日常写真でもいつの間にか歴史的風俗的価値を持ってきたりもしています。）などや、日常の学生レポートの指導や卒業論文などの教育指導記録などを会員各自の責任で投稿して頂きたいと存じます。（当然ながら、資料としての時、所、キャプション、コメントなどを付けて頂くとともに、プライバシー保護に務め、会則

に記しておりますように思想的政治的中立性を保持するなど、当学会にふさわしいものをお願い申し上げます。）

12. 口頭発表は原則として、事務局に依頼された時点で、日程調整、会場予約などを行います。小規模学会ならではの、学問的底上げを意識して、大規模学会のように短時間発表、短時間議論で時間に追われるのではなく、じっくりと議論することを目的として、一人につき１～２時間くらいの時間帯を準備し十分に議論しますが、申し込みが多数の場合は、シンポジウム形式のように、それぞれの発表が相互に連関できるものを優先的にとりあげます。早めの申し込みをお願いします。
13. 年会費（年度区切りは 3 月／4 月）については、規約に基づき全員から徴収します。そのつどの聞き手についてはこれまでどおり当日参加費のみ。論文掲載に関する負担金については、投稿規程を参照のこと。
14. 共同研究についても、当論輯に特集するとともに、単行本刊行を目指したく存じます。興味深いテーマを募集します。
15. この論輯および学会、研究所へのお申し込み、ご意見などは、japan.sccs@gmail.com にお寄せ下さい。
16. この論輯の購入に関しては、支部事務局にＥメールで問い合わせてください。
17. 執筆者自身で印刷し抜き刷りを作成することができます。表紙を印刷して付けるか、抜き刷り用の書式をご使用ください。また、全体の印刷・製本も会員に限り可能です。添付の背表紙をご利用ください。
18. 学会運営のスタッフや会費等は毎年度初頭（原則的に 4 月）に決定し承認しますが、緊急の議題に関してはそのかぎりではありません。
19. 本誌の著作権は総合文化学研究所に属します。但、当該原稿の著者自身に限り、その限りではありません。
20. 今後研究所や学会の組織編成など議論を重ねて有効なあり方を考えていきたいと存じます。ご意見やアイデアをお寄せ下さい。

理事名簿（2014.4.1 現在）

壬生正博・施光恒・大和裕美子・森敦嗣・山口誠・荒木雪葉

荒木正見（会長・総合文化学研究所理事長）